

単元の目標

- ・ one, some, another, other の違いが分かり、使い分けることができる
- ・ each, either, neither の意味を知り、それぞれ使えるようになる

★ I : one, some, another, other の違い p615～622

これまで Seek Neo や模試などでも散々出題されていた受験必須の項目ですが、実は授業で解説を行ったことがない部分です。それぞれを説明していきますので Ultimate を見ながら理解してってください。

○ one p615～617

数字の 1 を示す one ですが、「指示語」として it と同じような感じで使うことができます。例えば、

“Do you have a pen?” “Yes, I have one.”

という文が Ultimate の 615 ページにあります。ここで用いられている one は「a pen」を指し示す指示語です。では it とは何が違うのでしょうか？ it を用いて上の文を書き換えると

× “Do you have a pen?” “Yes, I have it.”

○ “Do you have the pen?” “Yes, I have it.”

のようになります。a pen と the pen の違いがかかわってきていますね。

one は「同種のもの」を指すときに使う指示語です。これに対して it は「同種ではなく、この世に存在するたった一つのあるもの」しか指せません。したがって、a pen だと「ペンであれば何でもいいのですが、ペン持っていますか？」という意味になるので、one を用いるのが適切で、逆に the pen だと「その私がこの間あげたペンじゃないとダメなのですが、もっていますか？」という意味になるので、it でないといけません。

one がよく使われるのは買い物です。

“Which color of jacket do you buy?” “I will buy a blue one.”

(どの色のジャケット買う?) (青いやつ買う)

買い物をするときを選ぶ商品は同じ種類のモノが複数存在しているため one を使うことが多いわけです。まとめると

- ・ one と it は同じ指示語
- ・ ただし one は「同種のモノ」、it は「唯一一つのモノ」をそれぞれ指す

おさえておきましょう。

○ some p617~618

some は皆さんご存知の通り、「いくつかの」という意味で使われます。これに関して重要なことは、「some は不特定多数のものを指示する」ということです。つまり簡単に言えば one の複数形バージョンのようなものです。したがって

○ “Do you have pens?” “Yes, I have some.”

× “Do you have pens?” “Yes, I have them.”

○ “Do you have the pens?” “Yes, I have them.”

のようになります。it と them がセット、one と some がセットというように考えていきましょう。

○ another p619~620

another は「an+other」でできています。したがって「1つの他のモノ」という意味を持ちます。よく使われるのは、おかわりを願う時ですね。

Can I have another cup of coffee? (コーヒーおかわりもらえますか)

というものです。The とはちがい不特定のものを示すので、ここでは「コーヒー」という同じ“種類”のものを“別に”もう一杯もらおうとしています。これとよく対比してだされるのが、other で、次にその説明を行います。

○ other p621

another と対になるということは another が不特定のものを示していたので、other は「特定の他のモノ」を示すことになります。特定のモノなので the が付き、the other として使います。これが複数になると the others です。The なしで others として使う場合もありますが、その点を含めてイラストでイメージを持ちながら学べるのが Ultimate p621 の猫の図です。今回でやったことを全て踏まえて、イラストの解説を見てみてください。

★まとめ

冒頭にもふれましたが、この one, some, another, other の違いというのは良く問題で出ます。理解できたかなーという人は、Seek neo の代名詞の文法ページやビンテージの代名詞ページ (p302~) などをやりながら復習してみてください。

★2 : each, either, neither p625~628

最後に、この3つの単語の使い方を学びます。Ultimate シリーズ最後のセクションになりますので、がんばってみてください。

○ each p625~626

each は「それぞれの」という意味の単語です。この単語、意味は皆さん知っているのですが、使い方をよく間違えますので、そこを押さえておきます。

① 「each +単数名詞」か「each+of+複数名詞」のどちらかの形で使う。

Ultimate にも書いていますが、以下のような例は×になります。

×Each people speak English. (それぞれの人が英語を話す)

→each のあとが単数形になっていない。People は「人々」だから複数名詞

×Each of person speaks English (それぞれの人が英語を話す)

→each of のあとが複数形になっていない。

② Each の塊は三人称単数

each の塊が主語になっているとき、これは三人称単数扱いになりますので、動詞に s を付けます。これを忘れる人がたくさんいますので注意してください。

Ultimate p626 には each と every の違いが載っています。これもチェックしておきましょう。

○ either と neither p627～628

最後に either と neither です。either は「どちらも」、その否定形の neither は「どちらも～ない」という意味の単語になります。使い方は each に似ていて「either/neither +単数名詞」か「either/neither+of (+複数名詞)」で使います(“()” 部分は省略可能という意味)。

「either/neither +単数名詞」パターン

“Would you like tea or coffee?”
紅茶とコーヒーどちらがいいですか？

“Either (of them) is fine”.
(紅茶とコーヒー) どちらでもいいです。
“Neither (of them) (is fine), thanks”
(紅茶もコーヒーも) どちらもありません。

「either/neither+of (+複数名詞)」パターン

“Which day is better for you?”
どちらの日が都合がいいですか？

“Either day is fine.”
両方大丈夫です。
“Neither (of them) (is fine).”
両方とも大丈夫ではありません。

～さいごに～

さて、Ultimate の範囲はこれで終わりです。この教材は、「皆、こんな文字だらけの文法解説なんか読む気にならないだろうなー。」と思いながら作って見たものです。だからわかりにくい人や読みにくい人は、無理に読まなくてもいいです。利用したい人だけが「1つの手段」として用いて下さい。

ただし今回7時間分の教材で触れた範囲は受験には必ず必要な内容ですので、この教材で難しかった人は、「ぎゅっと e で質問してみる」「Ultimate を自分で読んでみる」「学校が始まって先生に聞いてみる」などして対策を必ずしてほしいと思います。よろしくお祈りします。

それでは Good Luck !!